新潟経営大学　中期計画

－ 第２期（2025 年度～2029 年度）－

令和 7 年 4 月

新潟経営大学

＜シンボルマークの由来＞

新潟経営大学のロゴは、たまごをモチーフに描かれています。

「啐啄同時（そったくどうじ）」という禅の言葉によれば、雛が内側から殻を破ろうと声をあげると同時に、親鳥が外側から殻をつつかなければ、雛はたまごから出てくることができません。

このロゴには、４年間の大学生活の中で自ら殻を破り、自分の新たな可能性に出会ってほしいという学生への想いが込められています。そして、卒業後にそれぞれの目指すところへ大きく羽ばたいて行けるように、大切に学生を育てようという本学の志を掛け合わせ、すべての始まりであるたまごが割れた瞬間をシンボルとしました。

たまごの青いカラーは、あらゆる世界へと広がる蒼天を表しています。

― 目　次 ―

Ⅰ　加茂暁星ルネサンス計画全体の体系　1

Ⅱ　建学の精神　2

Ⅲ　教育目標　2

Ⅳ　計画策定の経緯　3

Ⅴ　新潟経営大学中期計画（各論）　4

＜第１章＞【教育の質保証】　7

【カテゴリー1】教育力の強化　8

【カテゴリー2】研究力の強化　10

【カテゴリー3】学生支援の強化　11

【カテゴリー4】地域貢献・産官学連携の推進　13

【カテゴリー5】高大連携･大学間連携の推進　15

【カテゴリー6】入学者の確保　16

【カテゴリー7】広報戦略の強化　17

＜第２章＞【業務プロセスの改善・教職員の資質向上】　18

【カテゴリー8】教職員のモチベーションの推進　19

＜第３章＞【PDCA サイクルの確立】　20

【カテゴリー9】財務基盤の強化　21

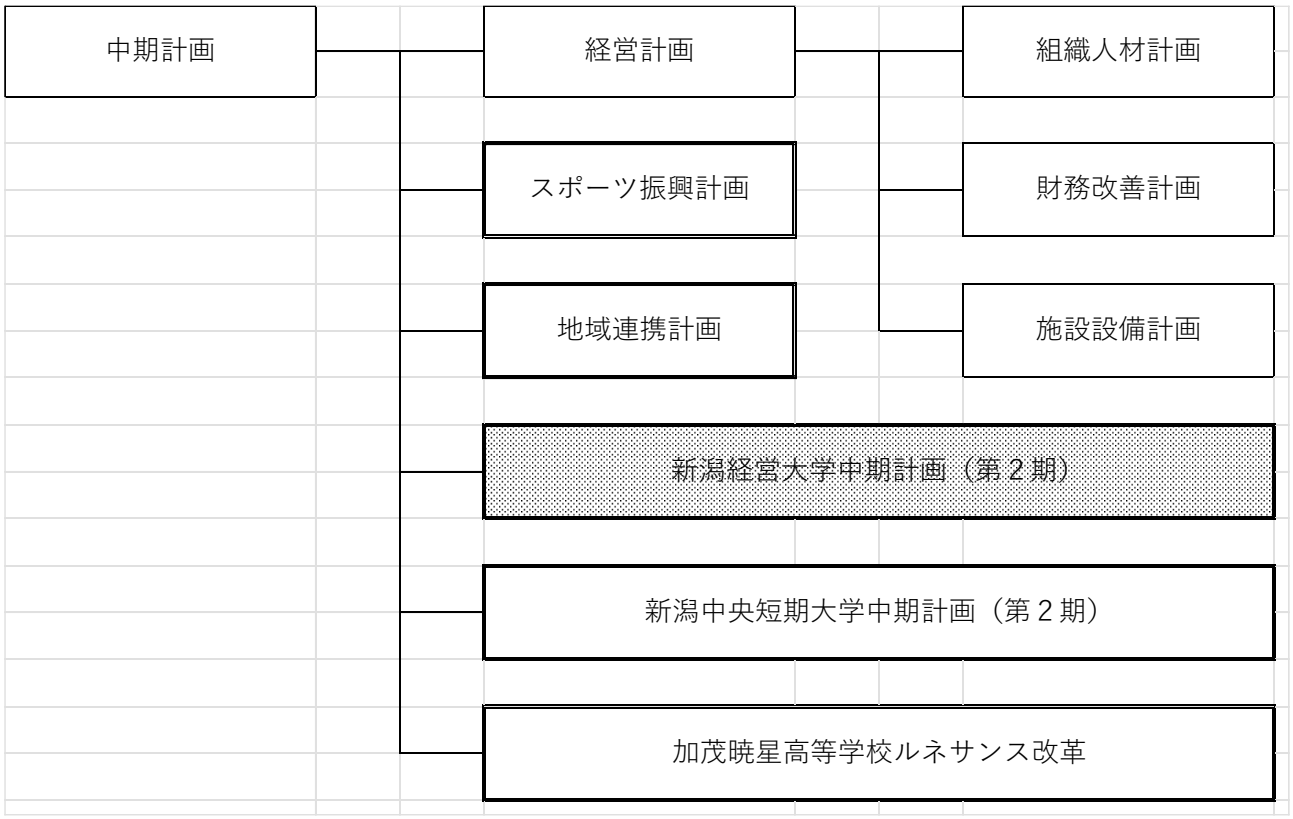
＜第４章＞スポーツに関する重点プロジェクト 22

【カテゴリー10】スポーツ資源の活用 23

Ⅵ　新潟経営大学第２期中期計画の体系 25

Ⅰ　加茂暁星ルネサンス計画全体の体系

本計画は、学校法人加茂暁星学園の総合計画である「加茂暁星ルネサンス計画」の一部を構成するものである。



Ⅱ 建学の精神

業学一如「学は業のためにあり、業また学でなければならないのである」

（創設者　西村大串（にしならだいかん））

【業学一如：ぎょうがくいちにょ】

本学園の創設者、西村大串は大正 9 年 9 月(1920 年)、加茂朝学校を設立。その説明会において「学は業のためにあり、業また学でなければならないのである。この朝学校なるものは、普通の学校とはその趣を異にして一心に只だ身を学問にゆだねる事のできない人たちが只だわずかなる朝の時間に読書修養を志すのである。未だ惰眠を貪っている鶏鳴四時をつぐる時、厳冬丈なす雪ふみわけて登校することは勿論困難なことには相違ない。朝学校は自ら真を求る人々の人格の修養場である。」と語り経済的、時間的に余裕のない若者に学びの機会を与えました。

Ⅲ 教育目標

なりたい自分になれる大学

― 学生成長力 No.1 の大学をめざす ―

○学生の個性と潜在能力を引き出し、学生がなりたい自分になれるための支援を行います。

【教育・研究における重点項目】

○新たな情報化社会にたくましく生き抜く主体性と創造力のある学生を育成する

○地域の課題を解決し、地域の活性化に資することを中心とする独創的な研究活動に取り組む

【地域貢献における重点項目】

○地域に根差す大学の使命をもち、大学の知見を地域に還元すると共に地域の活性化のために実践する

○産官学連携・高大連携等地域とのつながりを深め、新たな教育・新たな地域社会の創造へ挑戦する

Ⅳ　計画策定の経緯

本学の第１期中期計画は、進展する少子化に対応するとともに、2018 年に中央教育審議会から文部科学大臣へ答申された「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を参考にして作成した。

「グランドデザイン」は、SDGs、Society5.0、第四次産業革命、人生 100 年時代、グローバル化の進展や地方創生の必要性からの社会変革の方向性を考慮したうえで、予想される近未来の高等教育を想定したものである。本計画も「グランドデザイン」において中核として挙げられている①研究力の強化、②産業界との協力と連携、③地域との連携の 3 項目を取り入れている。

答申から６年が経過し、この間、新型コロナウイルス感染症の蔓延などを経て、当初想定されていた以上の少子化が進んでいる。また、数理・AI・データサイエンス分野の重点化、DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応した高等教育など、新たなテーマが俎上に上ってきた。

従って、第２期中期計画においても、その具現化を図るために、10 項目(教育力の強化、研究力の強化、学生支援の強化、地域貢献･産官学連携の推進、高大連携の推進、入学者の確保、広報戦略の強化、教職員のモチベーションの推進、財務基盤の強化、スポーツ資源の活用)に重点を置きつつ、新たな教育課題に対応できる具体的な施策を設定し、達成目標を設定することとする。

本学全体で取り組む基本的な計画目標を３点挙げている。1 点目は中途退学者を防止するなどして「収容定員充足率」を 100％にすることである。2 点目は、入学者を着実に確保して「募集定員充足率」を 100%にすることである。3 点目は、「希望者の就職決定率」を 100%にすることである。

この計画は、引き続き、PDCA サイクルを基本として実施していくこととする。つまり、計画を実行したことに対しては評価を行い、それをもとに施策を改善し、再び実行していくこととする。

2024 年に本学は、創立 30 周年を迎え、これまで多くの卒業生を輩出してきた。卒業生にとって、本学は「学びの故郷」であり、今後は、同窓会を再結成して、県内外で活躍している卒業生の結びつきを強化していく必要がある。卒業生は、嘗ての仲間と再会し、人的繋がりを確保することができる。こうしたことは、本学全体の支持基盤の拡がり及び結束力強化にも繋がることである。

更に、本学では、配慮が必要とされる学生に対しては、合理的な配慮を行い、サポート体制も充実させている。また、多様な学生に対するサポートや、差別的な対応を行わないことも学生支援の行動指針とするものである。

Ⅴ　新潟経営大学中期計画（各論）

1　計画の目標水準

【教育の質保証】

新潟経営大学の質保証の前提として以下の指標を計画期間内に達成する。

A　募集定員充足率	**１００%達成**
B　収容定員充足率	**１００%達成**
C　希望者就職決定率	**１００%達成**

【業務プロセスの改善・教職員の資質向上】

中期計画の推進体制を確立するため、組織の業務改革、職員の意識改革・人材育成を推進する。

D　全ての重点目標に着手し、複数の制度化を図る。

【PDCA サイクルの確立】

新たな収入確保を図るとともに、収支構造の見直しを推進する。

E　全ての重点目標に着手し、収支バランスを達成する。（赤字ゼロ）

２　計画の体系

＜カテゴリー＞	＜重点目標＞
1. 教育力の強化	⑴ 語学力の強化 ⑵ スポーツ科学の新たな分野の教育を充実させる。 ⑶ 学生の海外留学の促進 ⑷ 資格取得の強化 ⑸ ビジネスコンテストへの参加 ⑹ 公務員学習センターの充実 ⑺ ＤＸ人材、データサイエンス人材の輩出に向けた情報基盤の強化 ⑻ 地域課題解決型教育の強化 ⑼ 地元からの意見を反映した教育の実践
2. 研究力の強化	⑴ 研究活動の推進 ⑵ 外部資金の積極的獲得
3. 学生支援の強化	⑴ 就職指導の充実 ⑵ 学生ニーズの多様化に応じた環境の整備、支援の充実 ⑶ 休退学者・留年者の減少促進 ⑷ 安全・安心なスポーツ環境の充実 ⑸ 施設の改善 ⑹ 進学指導の充実 ⑺ 図書館利用案内等の充実
4. 地域貢献・産学官連携の推進	⑴ 産官学連携による教育研究の推進と成果の地域還元 ⑵ 地方自治体や地元産業界との関係強化 ⑶ スポーツ資源を活かした地域振興活動の展開 ⑷ 産官学金連携による社会人教育の推進 ⑸ 校種間連携の推進 ⑹ 大学施設利用の推進
5. 高大連携・大学間連携の推進	⑴ 高校での授業実施 ⑵ 運動部活動への支援 ⑶ 単位認定等の実施 ⑷ 在学生出身校訪問へのサポート

6. 入学者の確保	(1)入学定員充足率100%の確保
	(2)系列校との提携
	(3)スポーツ強化を通じた入学者の確保
	(4)留学生数の検討
7. 広報戦略の強化	(1)広報業務の効率化（DX化）
	(2)広報効果の数値化
8.教職員のモチベーションの推進	(1)業務プロセスの改善
	(2)教職員研修の実施
	(3)人事評価制度の導入
	(4)仕事の負担改善と心身の健康チェック
9. 財務基盤の強化	(1)施設使用料の徴収
	(2)外部資金の獲得
	(3)収支構造の見直し
	(4)計画的な施設整備の促進
10. スポーツ資源の活用	(1)スポーツ教育による学生の資質向上
	(2)スポーツ科学分野の環境整備
	(3)スポーツ環境の整備
	(4)スポーツ資源への集中投資
	(5)スポーツ施設マネジメント
	(6)大学のブランディング強化
	(7)スポーツを活用した国際交流
	(8)大学スポーツの強化・促進
	(9)スポーツによる社会連携の促進

第１章

【教育の質保証】

新潟経営大学の質保証の前提として以下の指標を計画期間内に達成する。

A	**募集定員充足率**	**１００%達成**
B	**収容定員充足率**	**１００%達成**
C	**希望者就職決定率**	**１００%達成**

【カテゴリー1】教育力の強化

＜重点目標(1)　語学力の強化＞

・CEFR-JB1.2 レベル及び CEFR-JB.1 レベルの英語力のある学生や中国語検定などの合格者を増やすために、報奨奨学金制度のこれまで以上の周知を行うとともに、具体的なキャリアプランを提示することで、資格取得並びに就職活動のモチベーションアップを図る。
・語学力の強化を目指す学生の資格取得を促進するため、語学関連の検定試験受験料を補助することにより、資格取得へのモチベーションを高める。

（数値目標）語学検定合格者数

＜重点目標(2)　スポーツ科学の新たな分野の教育充実＞

・スポーツに関連した実地研究、スポーツマーケティングリサーチ、GPS を活用したスポーツデータ測定、スポーツ栄養学など、スポーツ科学の新たな分野の教育を充実させる。

（数値目標）スポーツ科学関連講座開設数

＜重点目標(3)　学生の海外留学の促進＞

・留学プランの具体的な提示及び金銭的なサポートについての説明を行う。また、留学に伴う将来的なキャリアプランのモデルを提示し、留学生のモチベーションアップを図る。
・国際交流センターにおいては、海外留学を目指す学生の留学プランニング作成をサポートする。
・留学プログラムとして、海外長期留学、海外短期研修を継続して実施する。
・海外協定校との交流を継続する。

（数値目標）海外留学者数*

＜重点目標(4)　資格取得の強化＞

・簿記学習センターにおいては、会計系の資格取得を目指す学生に対し、試験対策の各種指導を行う。
・簿記学習センターの活用方法について、学生向けの情報公開の強化を図る。また、資格取得後のキャリアモデルの提示によるモチベーションの維持を図るとともに、報奨奨学金制度について、これまで以上の周知を図る。
・会計系の資格取得のための受験料を補助することにより、資格取得へのモチベーションを高める。
・対面、WEB 講義、DVD システムを活用し、確実に資格取得することをサポートする。

（数値目標）各種資格試験合格者数

＜重点目標(5)　ビジネスコンテストへの参加＞

・ビジネスコンテスト媒体の周知徹底を図るとともに、ゼミ活動の一環として、学生のビジネスコンテスト、コンペ等への参加を促進する。コンテストへの参加による発表を行うことで、対外的なアピール及び学修成果の達成感を醸成する。
・学生表彰制度の対象であることを周知徹底し、ビジネスコンテストで活躍した学生を表彰することで、対外的なアピール及び在学生へのモチベーションの向上に資する。

（数値目標）ビジネスコンテスト参加者数、学生表彰者数

＜重点目標(6)　公務員学習センターの充実＞

・公務員試験合格者数を増やすため、DVD 教材・センター設備等について、学生向けの効果的な PR を行い、センター利用者の絶対数を増やす。
・資格学校と提携し、公務員試験対策講座の受講をサポートする。
・警察官・消防官 DVD 講座など、公務員試験に対する教材を使用することで、合格者の増加を図る。

（数値目標）センター利用者数、対策講座受講者数、公務員合格者数

＜重点目標(7) ＤＸ人材、ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ人材の輩出に向けた情報基盤の強化＞

・本学において、ＤＸ人材、データサイエンス人材を着実に輩出するための情報基盤として、BYOD 環境の整備、主体的・対話的な学習環境の構築を推進する。

（数値目標）オンライン講座対応講義室数

＜重点目標(8)　地域課題解決型教育の強化＞

・地元自治体との協働により地域活性化をテーマとした教育研究活動に取り組む。

（数値目標）教育研究活動実施数

＜重点目標(9)　地元からの意見を反映した教育の実践＞

・教育方針、教育課程等について、定期的に地元自治体から意見を聴取し、寄せられた意見を反映した教育を実践する。

（数値目標）意見聴取自治体数

【カテゴリー2】研究力の強化

＜重点目標(1)　研究活動の推進＞

・教員に研究費を支給し、調査研究活動を行い、学長に研究経過報告書を提出する。
・図書館システムを運用するとともに、研究図書、出版物を購入し、研究活動を支援する。
・研究論文等を掲載した「新潟経営大学紀要」を毎年度刊行する。
・地方自治体、産業界等からの共同研究、依頼研究の相談に対応し、研究を実施する。
　（数値目標）研究論文提出件数（提出率）、共同研究実施件数

＜重点目標(2)　外部資金の積極的獲得＞

・科学研究費の事業内容や応募に関する説明会を開催し、一層の外部資金の獲得を図る。
　（数値目標）科学研究費採択件数（採択率）

【カテゴリー3】学生支援の強化

＜重点目標(1)　就職指導の充実＞

・職場体験やインターンシップへの参加を推進するとともに、希望産業・企業への就職率向上を目指すプログラムを改善する。
・社会人基礎力向上及び SPI 等の対策強化として、以下を実施する。
*学内合同企業研究会の２，３年生参加を強化する。
*企業講演、OBOG 講話を増やし、身近なキャリアモデルから就労イメージを掴むことなど、職業知識を高める。
*SPI 試験等の就職試験対策講座を開催する。
（数値目標）希望者就職決定率*、インターンシップ等参加者数（参加率*）、企業研究会参加者数

＜重点目標（2）学生ニーズの多様化に応じた環境の整備、支援の充実＞

・以下のような大学内の学生相談、支援機能の充実を図る
*コミュニケーションサポート体制の構築
*学生相談と学生支援組織の連携強化
*学生支援ルーム等の専門機関の開設
*FD・SD 実施による教職員意識の啓発
（数値目標）学生相談件数

＜重点目標（3）休退学者・留年者の減少促進＞

・休退学者・留年者の減少を促進するため、経済サポート、学習サポート、履修指導サポートなどを行う。また、職員からの学生サポートを手厚くする。
・「居場所作り」、「メンタルサポート」、「人間関係づくり」、「生活支援」、「経済的支援」、「学力向上のための、①ゼミ担任制、②少人数制、③習熟度別クラス編成、④個別学習指導、⑤添削指導」などを実施する。。
・ゼミ担当教員によるきめ細やかな履修指導及び学修指導を行う。学務課員との連携による確実な単位修得を目指す。学生生活全般にわたる指導や、相談対応の徹底による不安等払拭により授業欠席の減少を図る。
（数値目標）収容定員充足率*、中途退学者数（退学率）*、休学者数*、留年者数

＜重点目標(4)　安全・安心なスポーツ環境の充実＞

・スポーツ指導に必要な関係団体（NSCA,UNIVAS,JSPO)の資格取得・更新を促進し、安全・安心なスポーツ環境の充実を図る。

・UNIVAS の提供する支援ツールを積極的に取り入れるとともに、強化指定部以外の運動部についてもスポーツ保険の加入率 100%を目指す。
（数値目標）スポーツ指導関連資格取得者数、スポーツ保険加入率

＜重点目標(5)　施設の改善＞

・第１号館については、建物建設から 30 年以上経過していることから、施設設備更新計画に基づき、安全・安心を確保できる教育環境を維持する。
・第２号館については、有効活用計画に基づき、教育施設・設備の配置を図る。
・図書館については、館内施設（カーテンやテーブル、開架棚等）を改善する。
・食堂、外構、その他施設においても、必要に応じて維持修繕等を実施する。
（数値目標）施設整備計画進捗率

＜重点目標(6)　進学指導の充実＞

・大学院進学を目指す学生について、その可能性を含め、教職員の情報共有、情報提供を強化する。
・３年次早期卒業制度の活用により、大学院進学のための経済サポート、学習サポート、履修指導サポートなどを行う。
（数値目標）大学院進学者数

＜重点目標(7)　図書館利用案内等の充実＞

・図書館の利用案内に関する内容等を刷新し、図書館利用者の支援を行う。
・図書館機能の最新化と利用者の増加を促進するため、内外に開かれた学術情報プラットフォームの機能強化を図るとともに、学生の自主的・自発的学習活動及び学習コミュニティーの構築を支援する。
（数値目標）図書館利用者数*、図書貸出件数*

【カテゴリー４】地域貢献・産官学連携の推進

＜重点目標(1)　産官学連携による教育研究の推進と成果の地域還元＞

- 地方自治体、産業界等からの共同研究、依頼研究の相談に対応し、研究を実施する。（【カテゴリー2】重点目標(1)再掲）
- 地域活性化ジャーナルを刊行し、研究成果の地域還元を図る。
- 研究成果を地域社会に還元する無料の公開講座を開講する。
- 地元自治体との協働により地域活性化をテーマとした教育研究活動に取り組む。（【カテゴリー1】重点目標(8)再掲）
- 研究成果を地域に向けて発信するイベントを開催する。
- 地域産業界のニーズを踏まえた社会人向けの有料講座を開講する。
- 寄附講座を開講する。

（数値目標）、研究成果論文数、公開講座開設数、有料講座開設数、寄附講座開設数

＜重点目標(2)　地方自治体や地元産業界との関係強化＞

- 地元自治体、地元産業界との関係を強化し、教育研究の場を創出するとともに、地域貢献活動の充実を図る。
- 地元自治体との協働により地域活性化をテーマとした教育研究活動に取り組む。（【カテゴリー1】重点目標(8)再掲）

（数値目標）地域貢献事例数

＜重点目標(3)　スポーツ資源を活かした地域振興活動の展開＞

- 地元自治体と連携し、義務教育諸学校の体育系部活動の練習メニューのサポートを実施する。
- 本学のスポーツ資源を生かした子ども向け講座を開催する。
- 地元自治体のスポーツを通じたまちづくり事業等に参画する。

（数値目標）練習メニューサポート受託件数、スポーツ関連講座開設数

＜重点目標(4)　産官学金連携による社会人教育の推進＞

- 地域産業界のニーズを踏まえた社会人向けの有料講座の開講を検討する。

（数値目標）社会人教育講座開設数

＜重点目標(5)　校種間連携の推進＞

・高等学校との校種間連携として、高校のニーズと本学の学びの特徴を合わせ、探究学習のサポート等を実施する。
・中学校との校種間連携として、将来の学生候補の受け皿としての本学を PR することともなることから、中学校からの本学訪問を積極的に受け入れる。

（数値目標）連携高等学校数、来学中学校数・生徒数

＜重点目標(6)　大学施設利用の推進

・地域貢献の一つとして、地域スポーツの水準向上に寄与するため、経大フィールド等のスポーツ施設について、希望する団体に有償で貸出を行う。
・休校日に各種試験、各種セミナーの会場として、講義室等を外部団体等に貸し出し、施設の有効活用を図る。

（数値目標）講義室等の貸出件数

【カテゴリー５】高大連携・大学間連携の推進

＜重点目標(1)　高校での授業実施＞

・本学の教育資源、研究資源を活用して、高等学校探求学習への対応を図る。
　（数値目標）探究学習対応高等学校数

＜重点目標(2)　運動部活動への支援＞

・強化指定部を中心に、高校の運動部活動を支援するため、グラウンドやアリーナ、トレーニングセンターの貸し出しを行う。また指導についてもアドバイスを行う。
　（数値目標）高校運動部活動指導数

＜重点目標(3)　単位認定等の実施＞

・協定大学との単位認定制度を実施するなど、他大学との交流を促進する。
　（数値目標）協定大学数、制度利用者数

＜重点目標(4)　在学生出身校訪問へのサポート＞

・本学学生が、出身校の関連部活動等に訪問することで、入学者確保の受け皿となる可能性がある場合には、その訪問をサポートする。
　（数値目標）出身校訪問件数

【カテゴリー６】入学者の確保

＜重点目標(1)　入学定員充足率 100%の確保

・ガイダンス等へ積極的に参加し、ナーチャリングするための名簿をより多く獲得する。
・SNS 等の媒体を通して、より共感できる発信を行う。
・オープンキャンパス等のイベントについても時勢にあったアップデートを行う。
（数値目標）入学志願率*、歩留まり率*、入学定員（募集定員）充足率*

＜重点目標(2)　系列校との連携

・本学園が設置する加茂暁星高等学校（系列校）からの入学者に対し、修学及び学業の向上に資するため減免を行う。
（数値目標）系列校入学者数

＜重点目標(3)　スポーツ強化を通じた入学者の確保

・強化指定部としてリクルートを積極的に行い入学者の確保を行う。部としての適性人数が違うため一つの部に偏ることが無いようにする。
（数値目標）スポーツ強化指定部入学者数

＜重点目標(4)　留学生数についての検討

・国際交流センターにおいては、留学生への日本語学習支援や、生活情報の提供等、日本での生活全般におけるサポートを行う。
・協定校・協定機関との連携として、大学案内や学生募集要項などを発送する。
・海外協定校との交流を継続し、関係を強化するとともに、留学生向け学修プログラムの見直しを行い、留学生獲得のための PR 素材として活用する。
・留学生生活の安定と学業の向上に資するため、外国人留学生授業料等減免制度に基づき減免を行う。
（数値目標）外国人留学生数*

【カテゴリー７】広報戦略の強化

＜重点目標(1)　広報業務の効率化（DX 化）

・学生募集システムのリプレイスを行い、マーケティングオートメーションを図る。
・ワンリソースマルチユースを強化し、より多くの生徒へ周知できるよう努める。
　（数値目標）各種 SNS 等フォロワー数、個別フォロー配信数、資料請求件数

＜重点目標(2)　広報効果の数値化

・学生募集システムのリプレイスを行い、トラッキング強化を図る。
・各種数値を分析し広報媒体の最適化を行う。
　（数値目標）ホームページアクセス数

第２章

【業務プロセスの改善・教職員の資質向上】

中期計画の推進体制を確立するため、組織の業務改革、職員の意識改革・人材育成を推進する。

＜計画の達成水準＞

Ｄ　全ての重点目標に着手し、複数の制度化を図る。

【カテゴリー8】教職員のモチベーションの推進

＜重点目標(1)　業務プロセスの改善＞

・学生納付金・入学金・旅費・消耗品等の会計業務プロセスについては、業務の現状分析、フローチャートを作成したのち、電子データの受け渡しによる、無駄な入出力業務の省力化等を図る。
・申請書受付等の定型的業務の効率化を図る。
・ペーパーレス化と経費節減を図るため、出退勤、休暇届、施設利用届など、各種届出等の電子決裁導入を検討する。
・上記を検討するため、必要に応じて、プロジェクトチームを設置する。
（数値目標）業務改善システム化導入件数

＜重点目標(2)　教職員研修の充実＞

・教職員への能力開発として、外部研修への参加を推進するとともに、FD・SD 研修を実施する。
（数値目標）研修参加者数

＜重点目標(3)　人事評価制度の導入＞

・専任教職員の人事評価について、全て導入を図る。
（数値目標）業績評価申告件数

＜重点目標(4)　仕事の負担改善と心身の健康チェック＞

・教職員の休暇等の取得状況の把握と計画的取得の奨励を行うとともに、超過勤務の縮減を図るため、職員間の業務バランスを検討する。教職員の健康診断やストレスチェックを実施する。
（数値目標）検診受検率、ストレスチェック受検率

第３章

【PDCA サイクルの確立】

新たな収入確保を図るとともに、収支構造の見直しを推進する。

実施事業については、その実績と効果を検証し、必要に応じて見直しを行う PDCA サイクルを確立する。

＜計画の達成水準＞

E　全ての重点目標に着手し、収支バランスを維持する。（赤字ゼロ）

【カテゴリー9】財政基盤の強化

＜重点目標(1)　施設使用料の徴収＞

・同種施設とのバランスで、既存使用料が過少となっていないかなど見直しを行う。
・新たな収入源として、各種試験会場としての講義室貸出の促進、スポーツ施設の貸出の促進を図る。

（数値目標）使用料収入

＜重点目標(2)　外部資金の獲得＞

・私立大学等経常費補助金については、最低限、現行水準を維持するとともに、減額要因の解消に努める。
・私立大学等改革総合支援事業については、採択を目指し、外部科学研究費についても、採択増加を目指す。
・県・市町村からの補助金についても、引き続き、その確保に取り組む。
・社会人や地域住民を対象とした有料の講座を開設する。

（数値目標）経常費補助金増加率、改革総合支援事業採択率、科学研究費採択率

＜重点目標(3)　収支構造の見直し＞

・収支バランス（赤字ゼロ）を維持するため、新たな収入確保を図るとともに、収支構造の見直しを推進し、財政基盤の強化を図る。
・そのために、収入状況に応じた予算編成シーリングの実施を、当初予算、補正予算いずれにおいても実施する。
・実施事業については、その実績と効果を検証し、選択と集中を図る。

（数値目標）資金収支（収入・支出比率）*、予算編成査定率

＜重点目標(4)　計画的な施設整備の促進＞

・屋上、外壁、空調設備等は、経年劣化が著しく、故障・破損等により、教育環境に重大な影響を与える。投資的経費は多大であり、財務基盤に大きな影響を与えることから、設備更新計画を的確に策定したうえで整備を進める。

（数値目標）施設設備計画進捗率

第４章

【スポーツに関する重点プロジェクト】

スポーツマネジメントの新たな展開と受け皿づくりを推進する。。

＜計画の達成水準＞

Ｆ　全ての重点目標に着手する。

【カテゴリー10】スポーツ資源の活用

＜重点目標(1)　スポーツ教育による学生の資質向上＞

・強化指定部員としての自覚を促し、学生生活におけるマナーを指導する。大学から様々な面でサポートしてもらっているという意識を持ち、授業に取り組む姿勢、スポーツに取り組む姿勢を正すよう指導する。
（数値目標）スポーツマネジメント関連講座開設数

＜重点目標(2)　スポーツ科学分野の環境整備＞

・スポーツに関連した実地研究、スポーツマーケティングリサーチ、GPS を活用したスポーツデータ測定、スポーツ栄養学など、スポーツ科学の新たな分野の教育を充実させる。
（カテゴリー１（２）再掲）
（数値目標）スポーツ科学関連講座開設数

＜重点目標(3)　スポーツ環境の整備＞

・グラウンドのメンテナンスやアリーナの結露や熱中症対策としての冷房の設置を行い、選手がケガ等無く安全に練習や試合が行える環境を整備する。
（数値目標）スポーツ施設整備計画進捗率

＜重点目標(4)　スポーツ資源への集中投資＞

・重点目標(3)に掲げた施設整備の他、指導スタッフを充実させ、選手の指導や安全管理ができる体制を構築する
（数値目標）スポーツ指導スタッフ数

＜重点目標(5)　スポーツ施設マネジメント＞

・グラウンドやアリーナ、トレーニングセンターを他団体に貸し出す際に使用料を徴収する。
（数値目標）使用料徴収額

＜重点目標(6)　大学のブランディング強化＞

・強化指定部の強化を行い全国にアピールする。毎年全国大会に出場することで全国への宣伝になり、学生確保にもつながる

（数値目標）全国大会出場回数

＜重点目標(7)　スポーツを活用した国際交流＞

・留学生を迎え入れて、各種スポーツ体験やスポーツマネジメントの講義を受講してもらう。

（数値目標）スポーツ関連留学者数

＜重点目標(8)　大学スポーツの強化・促進＞

・スポーツ環境を整備し、指導スタッフの充実を図るとともに、奨学金制度を充実させて、各スポーツ強化指定部が毎年、全国大会に出場し、上位進出を目指せるようにする。

（数値目標）全国大会勝利数

＜重点目標(9)　スポーツによる社会連携の促進＞

・地元自治体と連携し、義務教育諸学校の体育系部活動の練習メニューのサポートを実施する。
・本学のスポーツ資源を生かした子ども向け講座を開催する。【カテゴリー4】重点目標(3)再掲
・加茂市のスポーツを通じたまちづくり事業に参画する。【カテゴリー4】重点目標(3)再掲

（数値目標）練習メニューサポート受託件数、スポーツ関連講座開設数